



第64回

感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ



第64回全国植樹祭
シンボルマーク「トッキーノ」

全国植樹祭

とっとり 2013



人間と木の共生を表現した創作劇
「大山森話」



森・川・海のつながりを表現したプロローグ
「はじまりのメッセージ」



会場が一体となったエピローグ
「はばたきのメッセージ」



大会のテーマを表現したダンス
「はぐくみのメッセージ」

第64回全国植樹祭が5月26日、約7000人が参加し、鳥取県南部町の県立フラワーパーク「とっとり花回廊」を主催会場に開催されました。

全国植樹祭は、毎年春に天皇后西陛下のご臨席のもと、国土の緑化や豊かな森林づくりへの理解を深めることを目的として、公益社団法人国土緑化推進機構と開催県によって共催される、国土緑化運動の中心的な全国行事です。

第1回大会は昭和25年に山梨県で開催され、以降は各都道府県を巡って開催されています。鳥取県内での開催は大山町で行われた昭和40年の第16回大会以来、48年ぶり2回目となります。



皇后陛下によるお手播き



天皇陛下によるお手植え



林農林水産大臣への苗木の贈呈



代表者として記念植樹を行う林農林水産大臣

テーマは「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」

県の74%を森林が占める鳥取県は、県内にある妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡等からスタジイやコナラなどの広葉樹を用いた住居や様々な木製の生活用品が出土していることが示しているように、古くから木の文化が栄えた地域です。今回の開催テーマ「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」には、この大会を契機として、多くの恵みをもたらす森林の役割を再認識し、持続可能な森林づくりを進めて行こうという思いがこめられています。

新たな緑の国づくりを

式典前のプロログでは、子どもたちと老木の触れ合いを通して人と自然の共生を訴える創作劇「大山森話」が上

演されました。

天皇皇后両陛下がご臨席し行われた記念式典では、国土緑化推進機構会長伊吹文明衆議院議長が主催者を代表して「この植樹祭が、被災地の復興に向けた取組にも勇気を与え、明日への希望につながるものとなることを念願するとともに、森や木々を愛する心を培う契機となり、豊かな森林、大切な国土を次の世代に継承していく活動が全国に広がっていくことを期待します」と挨拶しました。続いて、平井伸治鳥取県知事が「わが国が67%の森林を誇り、鳥取県が73%の森林を有するのは大いなる恵みであると同時に重い責任でもある。今こそ、新たな緑の国づくりを。鳥取からグリーンウェイブを起こしたい」と、森林づくりへの思いを述べました。続いて、緑化活動に尽力した関係者への表彰、一昨年から県内の小学校で育てられてきた苗木の林芳正農林水産大臣などへの贈呈が行

行われました。

両陛下のお手植えでは、天皇陛下はアカマツ(とつとりパワー松)、スタジイ、コナラの苗木を、皇后陛下はヤマボウシ、ウワミズザクラ、ホオノキの苗木をそれぞれ植樹されました。また、お手播きでは、天皇陛下はヤマザクラとクリ、皇后陛下はイロハモミジとヤマガキの種子を播かれました。いずれも鳥取県内に自生し、文化・生活と関わりの深い樹種で、両陛下は介添え役を務めた緑の少年団の子どもたちにお声をかけながら、お手植え、お手播きが行われました。

続いて今回の植樹祭で参加者が植樹を行った「交流の森」、「学習の森」、「体験の森」、「生活の森」への想いを表現したダンスパフォーマンス、東日本大震災の被災者代表に対する苗木の贈呈が行われました。

主会場のほかにも、伯耆町、江府町で行われた植樹などで参加者に緑の重要性を訴えた大会は、国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による大会宣言と、平井伸治鳥取県知事から来年の開催地・新潟県の泉田裕彦知事に全国植樹祭シンボルである「木製の地球儀」を手渡すリレーセレモニーで幕を閉じました。

次回の第65回全国植樹祭は、来春新潟県長岡市を主会場に開催される予定です。